

学校教育目標				知・徳・体の調和のとれた生徒の育成		土佐市立土佐南中学校		公印		NO. 1			
研究主題		一人ひとりを大切にしたいわかる授業の創造 ～関わり合いを通して～											
重点項目		評価項目		評価判断基準		達成指標		成果・課題		評価			
1 の ば う 学 力	確かな学力の定着と向上	学ぶ意欲の向上		児童生徒アンケート「あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E		25年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でAであった。26年度も5段階評価でAを目指す。 ・H25:4.1→H26:3.9(－0.2)		○3学年平均3.9と意欲的に学習に取り組もうとする姿勢の向上は一定継続していると考えるが昨年度より0.2P低下した点が課題である。 ○どちらとも言えないと答えた生徒が22名と多い。		B			
		わかる授業の創造		児童生徒アンケート「あなたは授業がよくわかりますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E		25年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でBであった。26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25:3.8→H26:3.7(－0.1) 参考:1年:3.2、2年:3.9、3年:3.8		○3学年平均3.7と肯定的な評価である。5教科におけるTT授業の実践を通して生徒の置きへの支援を行ってきた成果ではあるが、まだまだ「授業がよくわかる」という部分では生徒の実感としてはもの足りなさが伺える。授業力の向上が課題。		B			
				教員アンケート「あなたは、わかりやすい授業につめていると思いますか」の、5段階平均で判断。 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E		25年度、教員アンケートでは5段階評価でBであった。26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25:3.8→H26:3.8(±0)		○平均3.8と教員の授業改善への意識の高まりは昨年度と同様であった。ただし、保護者アンケートにおいては、教員が「わかりやすい授業」に努めていると思うかについて昨年と同様に3.3であり、まだまだ課題が残る。		B			
				全教員の公開授業の実施率で判断。 ・教員の90%以上が公開＝A ・教員の80%以上が公開＝B ・教員の70%以上が公開＝C ・教員の60%以上が公開＝D ・教員の60%未満＝E		25年度、教員アンケートでは5段階評価でAであった。26年度は5段階評価でAを目指す。 ・H25:12人実施(2月現在)→H26:14人(100%)実施(2月までの予定)		○全校公開・自主公開の授業研究を計画し、全教員の実施ができた。 ○授業後の協議もWS(ワークショップ)方式で行い教科の壁を超えて話し合うことができた。 ○全教員の授業指導力向上への研究意欲の高まりが更に求められる。		A			
		家庭学習の定着		家庭学習時間を小低30分以上、小中45分以上、小高60分以上、中学生90分以上学習している児童生徒の割合で判断。80%以上＝A 70%以上＝B 65%以上＝C 50%以上＝D 50%未満＝E		25年度は5段階評価でDであった。26年度は5段階評価でCを目指す。 ・H25:50%→H26:64.9%(+14.9%)		○全学年家庭学習時間の平均は111分である。特に3年生は約69%が90分以上と努力が見られ良く取り組めている傾向がわかる。 ○あと0.1PでC評価に上昇するので、方法も含めて学級での指導を充実させる。		D			
		読書活動の推進		学校図書館の児童生徒平均貸出数で判断(小学校) ・40冊以上＝A 20冊以上＝B ・10冊以上＝C 5冊＝D ・5冊未満＝E (中学校) ・20冊以上＝A 15冊以上＝B ・10冊以上＝C 5冊以上＝D ・5冊未満＝E		25年度は5段階評価でCであった。26年度は5段階評価でBを目指す。 ・H25:平均貸出10冊(12月現在)→H26:平均貸出11冊(12月現在)		○学年が上になる程、読書時間の確保、冊数が少なくなる。 ○新刊、読書感想文・画の課題図書の低浸透。		C			
		●関わり合いのある授業づくり→各授業において、グループ学習やペア学習などの生徒同士の関わり合いの場面をできる限り設定する。●授業を見る視点を3つに絞り、ワークショップ型の事後協議を実施している。●授業評価結果を検証・共有する「研修職員会」の実施。●「授業力チェックシート」を活用した授業改善の実施(毎学期)●指導方法の工夫改善(全学年5教科と総合のTT、3年生数学科の少人数指導)●小中連携推進合同研修会の実施●単元テスト等による授業内容の習熟度を確認										C	
		標準学力調査の状況		NRTの結果(小5・中2)による、学力の定着度で判断。標準偏差から ・+4P以上＝A ・+2P以上＝B ・0P以上＝C ・－2P以上＝D ・－2P未満＝E		25年度は、標準学力調査について5段階評価で国語はD、数学はEであった。26年度は、5段階評価で国語はC、数学はDを目指す。 ・H25:国語46.5、数学44.9→H26:国語46.9、数学46.4		国語(標準偏差50) 46.9(－3.1):「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」が低い。 数学(標準偏差50) 46.4(－3.6):「図形」「関数」が低い。		E			
		高知県学力定着状況調査の状況		H26高知県学力定着状況調査(小5・中2)の結果から判断。県平均から、小は+4P以上＝A、+2P以上＝B、0P以上＝C、－2P以上＝D、－2P未満＝E、中は、+5P以上＝A、+3P以上＝B、+1P以上＝C、－1P以上＝D、－3P未満＝E		25年度は、高知県学力定着状況調査について5段階評価で国語はE、数学はEであった。26年度は、5段階評価でDを目指す。 ・H25:国語47.2、数学41.8→H26:国語60.2、数学50.3		H26国語:県平均(59.0) 本校の結果は、県平均より1.2P高く、目指していたDよりも上回った。まだまだ読みとる力や思考力には課題も見られる。 H26数学:県平均(45.1) 本校の結果は、県平均よりも5.2P高い結果となり、Aまで向上。TT授業や加力指導の成果が出たと考えるが、個々には支援を要する生徒も多にいる。		C			
		全国学力・学習状況調査の状況		全国学力・学習状況調査の結果による、学力の定着度で判断。(ABの合計平均値全国平均と比較して差が) ・+2P以上＝A ・0P以上＝B ・－2P以上＝C ・－4P以上＝D ・－4P未満＝E		25年度は、全国学力・学習状況調査について5段階評価で国語B、数学Dであった。26年度は5段階評価で国語B、数学Cを目指す。 ・H25:国語73.7、数学50.5→H26:国語58.3、数学52.9		(H26国語全国平均:65.2) ・本校58.3(－6.9P)＝E 「書く能力」「読む能力」について低位であった。読みとる力にも課題が見られる。 (H26数学全国平均:63.6) ・本校52.9(－10.7P)＝E 「数学的な技能」「数量や図形など」についての知識・理解について正答率が低位であり大きな課題がある。		E			
●放課後学習タイム、水曜日の加力タイムの継続 ●「学習シラバス」を活用した家庭学習の取り組み ●課題形式の家庭学習の実施→英語単語ノート、予習・復習プリント年間を通した継続 ●土佐南中学校区学力向上小中連携推進事業の継続→4部会に組織された小中学校教職員の各グループにより年間3回以上の研修・交流を実施する。										E			
学校関係者評価を踏まえての改善点: ◇数学においては、「図形」「関数」領域の指導方法を工夫・改善する取組を充実させる。 ◇生徒の実態に応じた加力タイム(水曜日6時間目:30コマ目)の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定(調査において低位だった領域を重点的に復習) ◇全国学テ・県版学テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導(特に「読むこと」「図形」「関数」)に取り組む。 ◇本ページ上部の四項目の数値についての経年変化のデータを検討する。その結果と本ページ下部の三項目との関連について検討する。 ◇校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修(興味・関心を高める教材研究の充実)や授業づくり部における取組の充実(意欲化の研究)。													

学校関係者評価を踏まえての改善点:
 ◇数学においては、「図形」「関数」領域の指導方法を工夫・改善する取組を充実させる。
 ◇生徒の実態に応じた加カタイム(水曜日6時間目:30コマ目)の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定(調査において低位だった領域を重点的に復習)
 ◇全国学テ・県版学テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導(特に「読むこと」「図形」「関数」)に取り組む。
 ◇本ページ上部の四項目の数値についての経年変化のデータを検討する。その結果と本ページ下部の三項目との関連について検討する。
 ◇校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修(興味・関心を高める教材研究の充実)や授業づくり部における取組の充実(意欲化の研究)。

